

思い悩む間もなく決まった、がんの摘出手術

リスト・U

「リスト・U」はペンネームです

私の主治医となる人は、院長の肩書を持つていた。最初のクリニックからの紹介であるが、この総合病院は乳がんの専門医が三人そろっていること、他の病院に比べると比較的早い診察が可能であること、などのメリットがあるという。がんセンターだと、手術が三か月待ちだとも。乳がんがいくら進行のゆつくりしたがんであっても三ヶ月は待てない。とにかく、早い結果を望んでいた私は、迷うことなくその総合病院を選んだ。

検査内容はクリニックと同じ、エコーとマンモグラフィと細胞診だ。細胞診というのは、あやしい細胞を採取して顕微鏡でがん細胞を発見する検査のことだ、どの部位のがんでも最終的な診断法はこれである。しかし、この検査の問題点は、針を刺して採取した箇所にうまくがん細胞があたつてくれたらいいが、そうでなければがん細胞を発見することはできず、がんがあつても「異常なし」と出てしまうところだ。また、人間の目で細胞を塗布したプレパラートを一枚ずつ見ていくため、当然「見落とし」も生じやすい。さらに、乳がんは診断が難しいともいわれる。どんな検査でも「万能」ということはない。いくつかのデメリットを抱えつつ、現段階でもっと優れた検査法を行うしかない。しかし、このあたりの検査精度の限界は一般の人にはわかりにくく、のちの争いごとを生む土壤にもなっている。さてマンモにはやはり映らない。そういうタイプのがんだというのだ。あらだけマンモを前面に出して検査をすすめているわりには、マンモに映らないタイプもけっこあつたり、乳腺が発達している若い女性の場合はマンモよりエコーのほうが適していることなど、これまた一般にはあ

まり知られていないことである。日本の検診率が低いのは国にとつて長年の悩みの種であるが、検診を通じて知らない知識を得ることになるのだから、やはり定期的に受けたほうがいいと改めて思う。

クリニックと同様、エコーではほんやりと映り、細胞診の結果もグレーであった。ちょっと感心したのは、細胞診の検査がきちんとできるよう、針で刺した直後に細胞

診専門の検査技師がそばで待機し、細胞が十分量とれているかどうか確認する点である。私の場合も一回目はうまく取れなかつたらしく、再度採取したが、痛い目にあつても確実な検査をしてくれたほうがいいに決まっている。これはどこでもやっているわけではないので、なかなか丁寧だなと思つてしまつた。

がんであることはほぼ決定的であつたが、もうひとつ決め手が欲しいということになつた。二日後に予約を取り。くだんの恋人に報告をしたが、彼はまだそうであつてほしくないと思つてゐるらしかつた。おかしなことに、本人はすでに覚悟を決めているのに、周囲にいる人間のほうがいつまで希望的観測を持つてゐたりする。よくあることなのかもしれない。

予約した日の午前中にCT検査を受ける。驚いたことに午後には結果をみながら説明を受けた。何度も足を運ばなくてすむので、こういうスピード感は本当にありがたい。結果はやはり「クロ」。がんであることを承認した。すぐに、手術が必要なことが決定した。すぐに、手術の日を決めなくてはならない。仕事の予定がいくつか入つておらず、六日間続けて休み取るのは難儀であったが、一週間後の金曜日ならちょうど手術室もあいているとい

本をつなぐ 2

今こそ「銭湯」に行こうよ！

自営業 江草三四郎

「親孝行したいときには親はないんだよ」。

五年前、銭湯の湯船でたまたま隣り合わせた方からの一言が、未だに忘れられない。銭湯が大好きな私は、書店で偶然本書に出逢つた。「女湯エッセイスト」渾身の作品に。

みなさんは最近銭湯に行つたことがあるだろうか？ 本書は、著者が銭湯で様々な人と交流し、触れ合つた体験から紡ぎだされた人情味あふれるノンフィクション。リアルに描き込まれている。湯船の喧騒が聞こえてきそうだ。

「銭湯つてこんなに素敵なところだったんだ」と目から鱗が落ちるはず。銭湯に来る人は、いろんな人生を背負つて

「錢湯に浮かんでみれば」と題された



◆女湯に浮かんでみれば。
◆著者：堀ミチヨ
◆定価：1785円
◆発行：新宿書房
◆ISBN978-4-88008-399-5

「裸の付き合い」が減ってきてる現代社会。昔は見知らぬ人から怒られたりして、礼儀作法を教えられたものだ。今ではそんな光景を見ることもめつきり少なくなつたが、人との付き合いの原点つて、きっと私たちの身近な銭湯にあるのだと思う。

せわしない日常の隣に銭湯がある救い。本書には著者が自ら描いたイラストや「銭湯初心者」へ向けたコラムも満載で、銭湯に縁がない方も楽しめる内容。読後は非日常の銭湯に足を運び身体も心もリラックスしたいと思つていただけると嬉しい。

「せわしない日常の隣に銭湯がある救い。本書には著者が自ら描いたイラストや「銭湯初心者」へ向けたコラムも満載で、銭湯に縁がない方も楽しめる内容。読後は非日常の銭湯に足を運び身体も心もリラックスしたいと思つていただけると嬉しい。

▶「本をつなぐ」原稿募集中！

その本を知ったきっかけを入れて、おすすめのコメントを六百字程度でまとめて、有限会社ゆいぽおと（表面参照）までお送りください（メール、ファクシミリ、郵便で受け付けます）。採用の方には記念品も準備しています。

う。スケジュールを確認すると、退院予定の日の夕方には千葉の市川というところまで行かねばならなかつたが、もうこの日しかない。「本当に一週間で退院できますか」

と、まだ手術もしていないので、せつかちにきいてしまい、医者にあきれられてしまつた。

こうして、たいして思い悩む間もなく、あれよあれよといふ間に、がんの摘出手術を受ける運びとなつた。もう逃げることはできない。

う。スケジュールを確認すると、退院予定の日の夕方には千葉の市川というところまで行かねばならなかつたが、もうこの日しかない。「本当に一週間で退院できますか」

と、まだ手術もしていないので、せつかちにきいてしまい、医者にあきれられてしまつた。

こうして、